十月の御教え

人間は万物の霊長であるから、死んだ後、神にまつられ、神になることを楽しみに信心せよ。

……「天地は語る」第六十九条……

解説

人間は「万物の霊長（万物で最も優れた者）である」と、自負するのであれば、それにふさわしい生き方、即ち「死んだ後、神にまつられ、神として拝んでもらえるような信心をせよ」との思し召しであります。

では「神にまつられ、人が拝んでくれるようになる」には、どのような生き方をすればいいのでしょうか。

それは「神人あいよかけよの生活運動」にあるように“神心となって人を祈り助け導く”ことであります。その身近な例として、私達は、我が国はもとより世界の人々の戦争、災害による苦難の報道に触れるたびに、神様に、その人々の助かり立ち行きを祈願させて頂き、救援金を送る事などからさせて頂くと良いのではないでしょうか。

今年は、教祖様百四十年、三代金光様六十年の栄えなる御年柄、共にお蔭を頂きましょう。